

事業完了報告書（Kyoto Intensive area care unit for SARS-Cov2対策部隊）

事業名:	京都コロナ在宅医療フォローUP事業
資金分配団体名:	公益財団法人 信頼資本財団
実行団体名:	Kyoto Intensive area care unit for SARS-Cov2対策部隊
実施時期:	2021年1月～2022年2月
事業対象地域:	京都府
事業対象者:	京都市内のコロナ陽性患者

Version 3.2
日付: 2022年3月1日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>コロナ感染者の全国での急増に伴い、関西でも未曾有の医療的危機が展開された場合は、特に、莫大な数に上る真の意味での社会的弱者への感染は場合、毎日の保健所からの電話でも状況を押し量ることが難しく、自宅に取り残される事になる。</p> <p>このセグメントに対して、行政、保健所、入院コントロールチーム、及び民間機関のそれぞれのリンクを行う、コロナ陽性確定患者に対する特殊往診チームKISA2隊（Kyoto Intensive area care unit for SARS-Cov2対策部隊）（通称 きさつたい）という架空の医療チームを設定して、困難な状況下でも協力して行政の対応がなかなか難しい、現場の部分へのサポートとして対応を行おうと考えた。</p> <p>コロナ感染症となっても、患者が自宅に入院していただいているイメージとして広域展開を行う事業であった。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>自宅から出る事のできないコロナ陽性患者に対する往診、加療、治療、隔離解除までの責任業務。地域医療機関、地域医療リソースを結び付けコロナ環境下でも信頼を基軸として社会構造を維持することに注力した。結果的にはコロナ患者に対する、自宅まで往診を行う、行政とタイアップする民間組織としては日本初、かつ関西における医療側の特記すべき民間の活動として多数の注目を集める事となり、その現場での知見がコロナの往診加療における治療指針にダイレクトに反映される程の効果があつた。京都府知事のチームへの訪問、「情熱大陸」出演をふくめ、テレビはほぼ全局での取材を受ける事となり、新聞でも取材依頼が相次いだ。京都から発祥となったが、大阪、滋賀、奈良、兵庫、秋田、宮城、までその活動の波及があり、史上まれにみる超広域若手開業医連合の様相を呈する大きな活動となった。しかしながら、コロナ感染症は今回の助成時期範囲を大きく超え、今後も活動の継続が必須の状況である。まだプロジェクトの経過途中であるが、結果的にはこの事業によって、信頼資本財団の直接のサポートを受けたよき往診クリニック単一のデータで、少なくとも2020年2月から2022年2月末時点まで、介入患者381人（患者の半数以上は70歳以上、入院できない問題を抱えた患者が70%）、京都では核となる多職種連携の全職種トータル介入訪問回数3388回以上（第6波含まず）単日自宅管理患者最大37人となった。30%の患者が在宅酸素投与となり、80%以上の患者が自宅で治療を完遂した。</p> <p>中央値平均で24時間以内にアウトリーチ、介入期間が隔離解除基準と同等、同期間で介入症例の予期せぬ自宅死亡はゼロ（患者等の希望により終末期医療の一環として自宅で看取りを行ったケースが2症例）、という強烈なインパクトを残す途中経過となっている。</p> <p>単一のクリニック医療機関としての重症度の高いコロナ患者に対する介入件数は日本で一番多く、また経過途中での特効薬としての対コロナ抗体療法であるゼビュディ（2月は京都府全域での医療機関内で3位、日本初で京都にて自宅投与）、ベクルリー（2月での自宅療養患者への投与回数は世界一、日本初で京都にて自宅投与）などを含め、単に介入するだけでなく、必要な投薬を含めての高度な医療の提供が可能であった、という行動での実証となった。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	相談先の不足	特に必要性の高いコロナ陽性自宅療養者に対する24時間体制の往診加療	訪問回数	日本初の為不明	多職種連携KISA2隊チームの合計訪問回数第5波までで3384回	日本全国で京都のチームが最大の訪問回数と評価。以後我が国のコロナ自宅療養への大きな一石を投じる事になった。
その他	相談先の不足	特に必要性の高いコロナ陽性自宅療養者に対する24時間体制の往診加療	管理人数	日本初の為不明	1日の最大管理患者30人	最大時、京都府全域のコロナ病床の10%をKISA2隊がバックアップ。驚異的な数値で入院病床の圧迫を低減。
その他	相談先の不足	行政からの、特に必要性の高いコロナ陽性自宅療養者に対する往診加療のヘルプオファターの応需	応需率	日本初の為不明	応需率100%	行政からの悲痛なヘルプに関して100%対応。官民連携の礎と表現された。知事も波と波の間にクリニックに表敬訪問頂いた。
その他	相談先の不足	京都でのコロナ陽性患者の自宅死亡の減少	死亡率	0%（KISA2隊介入症例のみ）	0%（予定看取り以外のKISA2隊介入症例のみ）	KISA2隊の介入症例では、京都では自宅死亡は観察されず。少なくとも一定の死亡率回避に効果的であったと判断。（予定看取りは2例）
その他	相談先の不足	コロナ陽性自宅療養者へのアプローチの迅速さ	介入までの時間	24時間以内	24時間以内	迅速な対応がとにかく難しかったコロナ環境下でも迅速に患者宅に往診をおこなっていた。
その他	連携の不足	思いを共にし、KISA2隊のシステムの稼働地域を増やす	地域数	47都道府県	大阪、奈良、滋賀、兵庫、秋田	飛躍的な波及効果が継続しているが、今後も継続的に知見の共有を継続する。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	コロナ陽性患者となり、自宅療養が主戦場となった場合でも、特に重点的な対応が必要な全住民に対して行政とタイアップして24時間対応の医療体制を供給する。
考察等	不確定、不安定な困難な環境下での事業スタートであったが、信頼を基軸として困難な状況の中、唯一の明るい現場のニュースとして各種メディアに取り上げていただいた効果もあり、卓越した波及効果を得た。効果としては代替できない行為のため、自宅療養者にとっての大きな希望となった。成果としてはデータ解析では非常に卓越した動きが証明された。しかしながら、まだ全国への波及という点においては、まだ関西広域連合の枠のみのため、今後も活動の継続が必要と思われる。

V. 活動

活動	進捗	概要
コロナ陽性自宅療養者へのアプローチ	計画通り	非常に優秀な評価
行政へのアプローチ	計画通り	非常に優秀な評価
仲間へのアプローチ	ほぼ計画通り	京都から全国へ波及しており一年間の活動中では破格の効果があったと評価

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	ほぼ全局のメディアから取り上げていただき、KISA2隊の名前が一躍全国区となった。情熱大陸への出演オファーあり応需。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	KISA2隊の名前が広まるにつれ、全国の医療機関より続々と合流医師表示あり、京都からの発信は関西広域コロナ対策自宅療養本部となった。第6波時点でもぎりぎりの戦いは継続中。第7波以降もほぼ確実に活躍、活動の幅がひろがった。信頼資本財団のサポートを受けて、ただ一人の医師の発案から生まれた事業であったが、医師はKISA2隊全域で約50人、関係メンバーは100人を超える一大勢力となった。職種に関しても訪問看護、訪問薬剤、訪問リハ、オンライン診療チームやコーポレート部門なども次々と立ち上げに成功した。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
京都府医師会	トライアルケースとして公認団体。
京都府入院コントロールセンター	京都府が日本初の民間とのタイアップ事業として先進的事例として国会でも発表
京都府	知事の表敬訪問を受けた。
京都市	約150万人対象の事業として、京都市全域カバーの事業として活動
京都市全域保健所	保健所の手の届かない自宅療養者に対するの最終防衛ラインとしての活動

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

きょうと		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	20,000,000	20,000,000	100.0%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		20,000,000	20,000,000	100.0%
補足説明		受諾金額は全て使用、そのすべてを関西広域の信頼を基軸とした事業展開に余すことなく展開。		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	TVは関西広域ではほぼ全局出演。(サンテレビを除く)。報道ランナー、ミヤネ屋、報道ステーション、NHKニュース、情熱大陸、を含めて、ほぼ連日の取材、同行取材、オンライン取材。を自浄性と透明性確保のため、広報担当を信頼資本財団からの補助を受けて設立。京都新聞をはじめとして、ほぼ全国展開の新聞は全てから取材受諾。雑誌はクリニックバンブーの表紙
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	KISA2隊HP作成、広報担当部署設立
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	信頼資本財団のシンボルマークは2021年度だけで50回以上の講演の中に登場。
4.報告書等	活動を元に、日本のコロナ自宅療養ガイドラインの99%以上がKISA2隊の知見をもとに作成された。

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)		
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	現在関西きさつたいとして一般社団法人化の動きがあり、そちらで整備し直し、公開予定です。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	年1回のため未実施です。こちらも一般社団法人化に向け、整備しなおします。

2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	規定類については、一般社団法人化に伴い再度整備予定。その他事業会計等については貴補助金事業を通して公開。
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	いいえ	今後、一般社団法人化に伴いしっかり整備する予定です。
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	今後、一般社団法人化に伴いしっかり整備する予定です。
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input type="checkbox"/> 内部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	今後、一般社団法人化に伴いしっかり整備する予定です。

XII. その他

自由記述